

科目名	日本語文化	科目コード A0020
-----	-------	----------------

学科名・学年	全専攻1学年 (プログラム3学年)	担当教官	猪平 直人(一般)		
単位数	2単位・選択	開講期間	後期	時間数	30時間
				内訳(時間)	講義(30), 演習(0) 実験(0), その他(0)
教科書	伊勢物語(角川文庫)				
補助教材	プリント(授業担当者が準備)				
参考書	各種古語辞典				

A 科目の概要	
<p>平安時代の歌物語である『伊勢物語』の各段を読解する。授業は、受講者で分担を決めて、資料を作成し、発表する演習的な要素を取り入れた講義形式とする。特に、『古今集』歌章段を中心に、その内容を『古今集』の記述と比較し、相違点を考察することによって、『伊勢物語』の作品世界が持つ方向性を感じ、日本古来の美意識に対する理解を深める。</p>	
B 到達目標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「歌物語」と「勅撰和歌集」の二つの形式を比較することで、日本独自の文芸形式である「和歌」をめぐる表現を通じて、古代日本人の言語感覚を理解する。</li> <li>・文語表現を通して古代人の感性に触れ、日本人の伝統的な情感を理解する。</li> <li>・『伊勢物語』の中に表現されているとされる「みやび」の理念を理解する。</li> <li>・発表と質疑応答を通して、議論と対話の正しい方法を体得する。</li> </ul>	
C 長岡高専の学習・教育目標との対応	(B)
D 履修上の注意	
<p>あらかじめ担当者と担当範囲を決め、毎回受講者に発表を行ってもらう。主として『古今集』に同一(もしくは類似)歌が重出している章段について、両方の記述を比較し、その相違について考察する形式を中心とする。また、テーマを決めてレポートを課すこともある。</p> <p>自分の発表する範囲に限らず、作品をあらかじめ読んでおくこと。古語辞典を用意し、授業に備えること。</p>	
E 評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・文語表現の解釈に関する発表で理解度を評価する。(80%)</li> <li>・発表と質疑応答の形式を評価する。(10%)</li> <li>・古代人の美的観念に関する設問で理解度を評価する。(10%)</li> </ul> <p>定期試験【0%】(前期中間(0),前期末(0),後期中間(0),後期末(0))、その他の試験【0%】、レポート【45%】、その他(発表)【55%】 の割合で達成目標に対する理解の程度を評価する。60点以上を合格点とする</p>	

F 授業計画・内容		
週	内 容	備 考
1	『伊勢物語』概説・発表担当者と担当範囲の決定	
2	発表 初段・第2段について	予定調整
3	第3段と『大和物語』161段・第4段	担当人数を調整
4	第5段	
5	第6段。二条后章段のまとめ	
6	第9段(7・8段)。東国章段	
7	第10・11・12段と、第13段	
8	第(13)14・15段。「みちのくに」と男の帰還	
9	第(16)17・18・19段。紀有常。	
10	第23段	
11	第(24)25段	
12	第(40)41段	
13	第69段。伊勢の斎宮	
14	第82段。惟喬親王	
15	まとめ。終焉章段と、『伊勢物語』の構造	
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		